シニアドッグ・サポーター制度

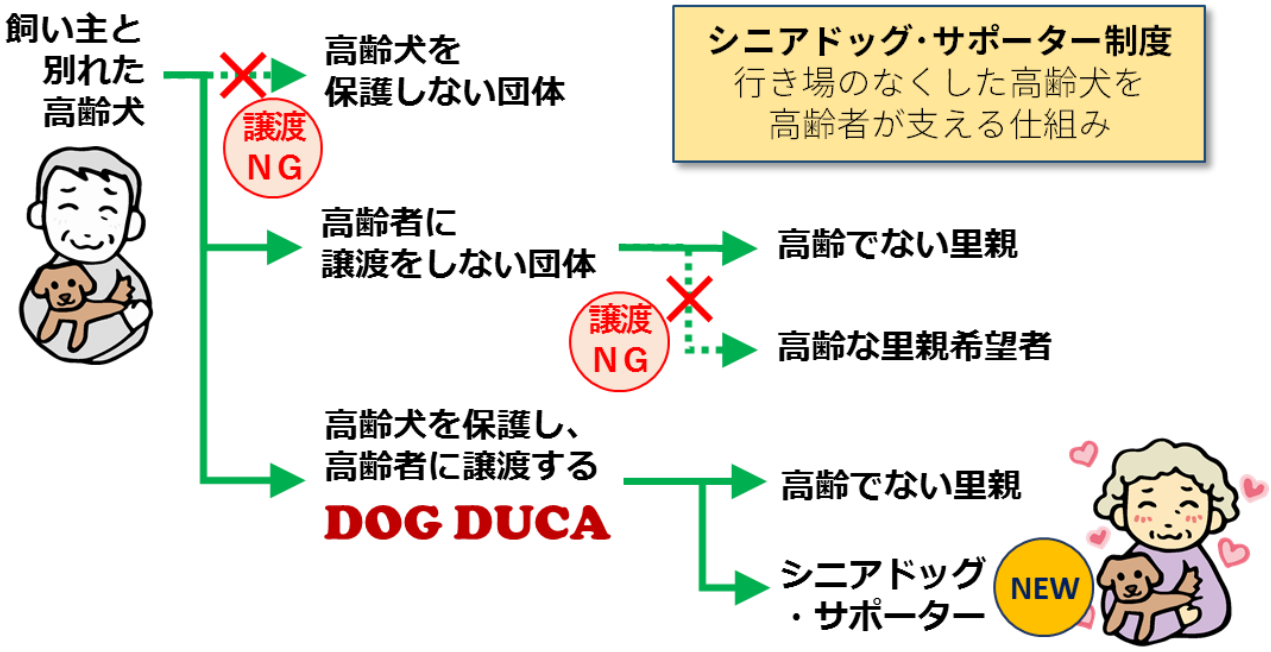
～高齢者だから出来る、犬の保護活動～

NPO 法人 DOG DUCA（052-795-5003）
令和元年 10 月 3 日

概要：「シニアドッグ・サポーター制度」とは？

DOG DUCA では、保護活動を始めた 2001 年より「高齢犬の保護」「高齢者への譲渡」「老人ホームでのアニマルセラピー活動」をしてきた経験から、高齢犬と高齢者が共に暮らすことで、お互いにとってプラスに働くことが多いことに着目。

そこで、高齢者への譲渡をより高齢者のニーズに合う形にして、高齢犬（シニアドッグ）を高齢者（シニアドッグ・サポーター）が共に暮らすことでお互いを支え、より良い共存ができるようにするための「サポーター制度」とし、より多くの高齢者の力を借り、より多くの高齢犬を救っていく、「高齢化社会」の時代にふさわしい施策を始める。



社会的背景～高齢犬や高齢者を取り巻く環境～

動物愛護の世界では、「高齢犬」と「高齢者」は長らく「排除」されてきた。

だいたい 8 歳以上の犬を「高齢犬（シニアドッグ）」というが、しつけも不要で運動量も少なく飼いやすいにもかかわらず、飼い主である高齢者が亡くなったりした場合、「医療やケアの負担が大きく譲渡が難しい」という理由で、真っ先に殺処分されたり、動物愛護団体でも保護自体行わないケースも少なくない。

また、「犬を飼いたい」という単身の高齢者は、配偶者と飼い犬を共に亡くした人が多く、「犬のいない生活」となることで、生活に張り合いがなくなったり、犬の散歩などでつな

がっていた社会との接点もなくなりがちで、「孤独死」の温床になり得る。また、高齢者は「自分に万が一のことがあった時が不安」と犬を飼いたくても躊躇する人もいれば、中には「老い先も短いから高齢の保護犬でもいい」と考える人も多い。

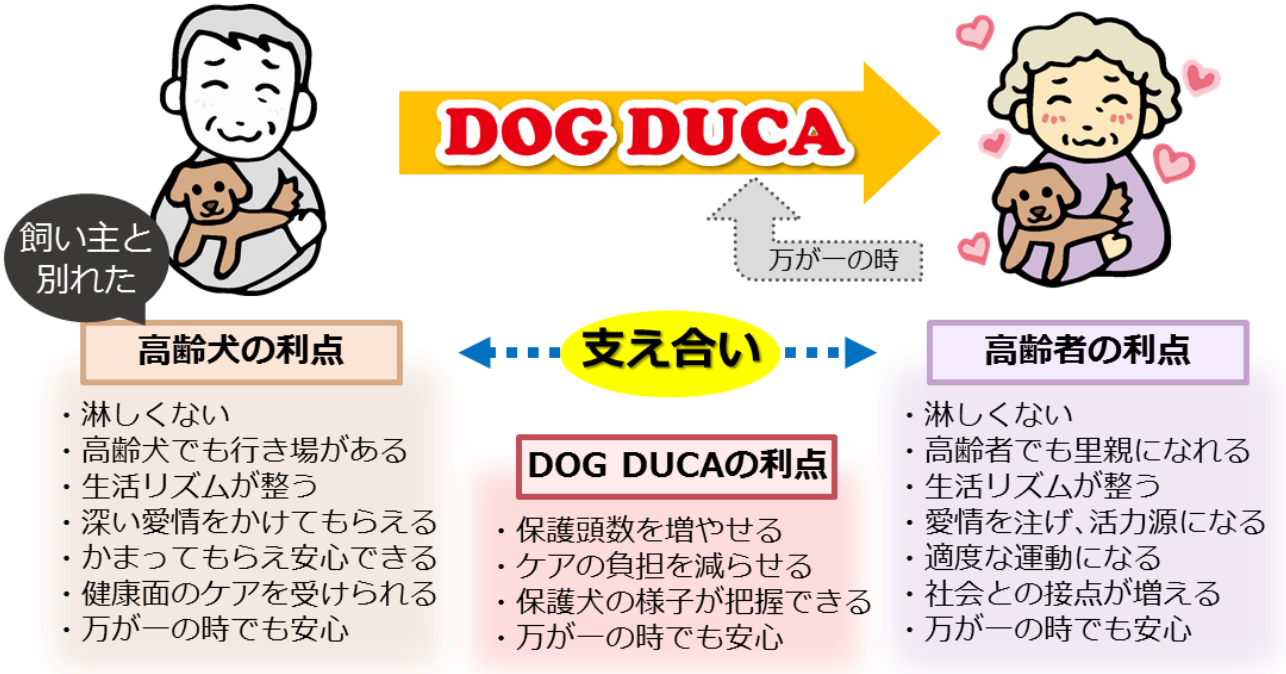
しかし、ほとんどの愛護センターおよび動物愛護団体には、保護犬が戻って来て再度保護犬になることを防ぐため、「６０歳～６５歳以上の高齢者には譲渡しない」というルールを設けて断るケースが多く、その結果、高齢者が子犬を買い、最期まで飼育できずに飼育放棄される事例が後を絶たないなど、高齢者にとって適切なマッチングができていない。

高齢者だから出来ること～DOG DUCA の狙い～

現代は、高齢犬と言ってもそこから倍以上生きる犬もいれば、高齢者でも７０を超えても元気な人もいる。もちろん、運動能力に衰えがあったり、病気のリスクがある部分は否めないが、高齢犬と高齢者がともに暮らすことで、それを補い合うことも不可能ではない。実際、高齢犬は、長い時間を高齢者と共にしてきたため、通常の犬よりも人間との濃密な関係、深い愛情を求める傾向があるが、高齢者には、それに応えられる時間も心のゆとりもあり、また、犬の飼育に慣れ、看取り経験もあるため、日中留守にしがちな共働き世代の夫婦よりもはるかに高齢犬と暮らすのに適した人材と言える。

また、高齢者が高齢犬と暮らすことで、お互いが淋しさを感じなくなるだけではなく、生活リズムが整ったり、アニマルセラピー効果で心身共に健康的になったり、散歩などの機会を通じて社会との接点をもって孤独にならずに済んだり、「この子を残して死ねない」という責任感や使命感が発生して、これまで以上に元気に生活できるようになったりと、高齢者にとっても大きなメリットがある。

そこで、DOG DUCA がそういった高齢者と高齢犬を結びつけ、「何かあった時は相談できる」「万が一の時は戻ってきてもよい」体制をとることで、高齢者の力を活用し、里親に行きにくい高齢犬を幸せにしてもらいながら、「人と犬のより良い共存」社会を実現する。



制度の特徴

〔高齢者の飼養環境に合わせた所有形態を選択できる〕

「シニアドッグ・サポーター」では、一般的な里親譲渡と同じ形態の他、年金生活で経済的にゆとりが少ないなどの場合は、所有権を DOG DUCA のままにしておき、「一時預かりボランティア」と同じような形で、フード支援や提携病院での医療の支援を受けることもできる（但し、名古屋市守山区近郊に限る）。

〔万が一の時のサポート体制〕

所有形態がいずれにしろ、サポーターである高齢者が「死亡」「長期入院」「施設入所」などで、飼育継続が難しくなった時でも、犬を DOG DUCA に戻ることができる。そうすることで、犬としても前に過ごしていた環境のためストレスなく暮らすことができる。

また、検査や軽い症状での一時的な入院であっても DOG DUCA に戻してサポーターの帰りを待つ、といったことも出来、「里親になりたいけど、自分に何かあった時に不安」というサポーターの心理的不安を軽減することが出来る。

	シニアドッグ・サポーター		一般の譲渡
所有権	DOG DUCA	サポーター(里親)	里親
生活・就寝	サポーター宅		里親宅
食事・医療	DOG DUCA* *状況により応相談	サポーターが負担	里親が負担
死亡等により 飼育継続不可	DOG DUCA に戻る		家族等もしくは DOG DUCA に戻る
入院等での 一時預かり	一時的に DOG DUCA に戻り サポーターの帰りを待つ		家族等

〔コミュニケーション〕

ＳＮＳでのグループトークを使い、DOG DUCA とサポーターとの間で保護犬との生活、体調の変化などを共有する。

高齢者と日常的にコミュニケーションを取ることで、高齢犬だけでなく、高齢者の不測の事態に予め備えることもしやすく、高齢者としても社会との接点が持てる。

ＳＮＳを使用した例

〔サポーター証〕

サポーターには、会員証と一緒になった緊急連絡先カードを渡し、万が一の時は DOG DUCA に連絡が入るようにする。